

Godox 神牛

X1

TTLワイヤレスフラッシュトリガー  
TTL Wireless Flash Trigger

For FUJIFILM

取扱説明書



深圳市神牛摄影器材有限公司

GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Add: 深セン市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业区厂房2棟1階~4階、4棟1階~4階

1st to 4th Floor, Building 2/ 1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone,

Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China

電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423

電子メール/E-mail: godox@godox.com

705-X1TF00-10

Made In China



# 目次

02	はじめに	07	トランスミッターの設定
03	警告		電源スイッチ
04	部品		AF補助フォーカシングランプスイッチ
	本体		チャンネルの設定
	トランスミッターディスプレイ		モードの設定
05	電池		グループパワー-POWER/露出補正FECの設定
	電池の装着		ストロボグループピニングスイッチの設定
	低電池残量指示		ストロボパラメーターの設定
06	フラッシュトリガーの使い方		グループ値の設定
	ワイヤレスシンクロトリガーフラッシュ		テスト発光
	PCポートによるワイヤレストリガーフラッシュ		モデリングランプのコントロール
			自動に節電モードに入ります
			C.Fn:カスタム機能の設定
			カメラ側の設定
			操作方式の選択
		19	注意事項
		19	フラッシュトリガーの保守
		20	仕様
		22	対応カメラ

## X はじめに

この度はX1T-F TTLワイヤレスフラッシュトリガーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本TTLワイヤレスフラッシュトリガーはFUJIFILMカメラに適用し、神牛フラッシュをコントロールでき、また、リモートで直接で全面的に神牛Xワイヤレスシステムを搭載しているフラッシュ（例えばTT685S、V860IIS、AD360II、AD600、AD600M、ヴイングIIシリーズなど）をコントロールできます。Xワイヤレスシステムを搭載していないフラッシュ（例えばV860、V850、AD360など）の場合、XTR-16またはXTR-16Sレシーバを使ってM発光制御を実現できます。本製品は信号が安定で、反応が速く、カメラマンのライティングに便利であり、各種撮影需要を満たすことができます。同時に、PCポートを有しているカメラと接続できます。ハイスピードフラッシュシンクロをサポートし、最大フラッシュシンクロ速度は1/8000s\*に達しています。

\*：制限条件——カメラの最大シャッター速度は1/8000 sです。

## 警告

- ⚠ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ⚠ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックし、メンテナンスします。
- ⚠ 子供に本製品を触れさせないでください。
- ⚠ 燃焼しやすく爆発しやすい環境で使用しないでください。このような場合、関係警告マークに注意してください。
- ⚠ 50℃を超えた高温環境で置かないでください。
- ⚠ いかなる故障が起こった場合、直ちにトリガーの電源を切ってください。
- ⚠ 電池使用時の注意事項は下記の通りです。
  - 本マニュアルに記載された電池だけを使うことができます。新しい電池と古い電池またはタイプの違った電池を混ぜて使わないでください。
  - メーカーの提供した警告または指示を詳しく読んで遵守してください。
  - 電池を短絡させたり、電池を分解したりしないでください。
  - 電池を火の中に捨てたり、加熱したりしないでください。
  - 電池を装着する時に、電池の極性を間違わないでください。
  - 電池が切れると、液漏れしやすくなります。製品を損なわないため、長期間にわたって使わない時、または電池が切れた時に、電池を取り出してください。
  - 損なわれた電池中の液体が皮膚または衣服に触れた場合、直ちに大量な清水で洗い流してください。

## 部品

### ● 本体



## 部品

### トランスミッターディスプレイ



- (A) Mモードにおける各グループ出力の設定、TTLモードにおける各グループFECの設定
- (B) グルーピングモードの設定 (C) グループ (D) カレント選択済みグループ (操作方式2)
- (E) チャンネル設定 (F) Multiモード符号 (G) シンクロ遅延設定提示 (H) 低残量アラームアイコン
- (I) シングルコンタクトモード設定済み指示

## 電池

### ●電池の装着

トランスミッターとレシーバ裏面にある電池ボックスのカバーをスライドさせ、電池ボックス内の正負極指示によって、2本のAA電池（別に購入する必要があります）を装着します。

### ●低電池残量指示

電池残量が低い時（2本電池<2.0V）、低残量アイコンは点滅します、この時に電池を交換してください。もしないと、距離は遠い時に、ミスフラッシュしたり、フラッシュしなかったりすることがあります。



## フラッシュトリガーの使い方



### 重要な説明

ZOOM設定機能を使用したい場合、セットトップランプの自動ZOOM機能を起動してください。

本フラッシュトリガーは下記の機能を有しています。

### 1. ワイヤレスシンクロトリガーフラッシュ

使い方：

- 1.1 カメラの電源を切り、トランスミッターをカメラホットシューソケットに置き、トランスミッターの電源スイッチとカメラの電源をオンにします。
- 1.2 「チャンネル設定ボタン」を通じてチャンネルを選択し、トランスミッターとレシーバのチャンネルを一致させます。
- 1.3 カメラのシャッターを押すだけで、トリガーできます。同時にレシーバとトランスミッターの「状態インジケーター」が赤色に点灯します。



### 2. PCポートによるワイヤレストリガーフラッシュ

使い方：

- 2.1 トランスミッター側とレシーバ側のチャンネルとグループを設定します。
- 2.2 トランスミッター側のデフォルトはPCポートを入力ポートとし、レシーバ側のフラッシュを制御して発光させます。
- 2.3 正常方式でシャッターを押します。PCポート信号を使用して発光を制御します。
- 2.4 PCポートを出力ポートに設定できます。設定方法は次の通りです。トランスミッター側で<CH/OK> ボタンを長押しし、ディスプレイに<Fn> を表示させ、C.Fn-03値をouに設定し、PCポートを出力モードに設定します。



## X トランスミッターの設定

### ● 電源スイッチ

電源スイッチを「ON」にするだけで電源をオンにすることができ、状態インジケータは表示します。

注意：節電するために、長時間にわたって使用しない場合、電源をオフにしてください。

### ● AF補助フォーカシングランプスイッチ

電源スイッチを「ON」にして、AFフォーカシング光線を出力させます。

### ● チャンネルの設定

1. <CH/OK> ボタンを短押しして、チャンネル値は点滅します。
2. ダイヤルを回して適当なチャンネル値を選択します。再度<CH/OK> ボタンを押して、カレントチャンネル値は選定されます。
3. フラッシュトリガーは合計32個のチャンネルを持っており、1~32チャンネルの中で切り替えることができます。使用前にトランスミッターとレシーバを同じチャンネルに設定してください。



### ● モードの設定

1. <GR> ボタンを短押しすると、選択されたグループは点滅し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
2. <MODE> ボタンを短押しすると、選択されたグループのモードは変更されます。カレントグループはTTL/M/--モードで、順次に切り替わります(--はOFFを示し、カレントグループが発光しません)。



## X トランスミッターの設定

### ● グループパワーPOWER/露出補正FEC値の設定

1. <GR> ボタンを短押しすると、選択されたグループは点滅し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
2. ダイヤルを回してパワーまたは露出補正を変更します。カレントグループはMモードにある場合、そのパワー出力値はMin. ([注1])~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードにある場合、そのFEC値は-3~3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは-- (発光オフ) である場合、何の影響もありません。
3. 再度<CH/OK> ボタンを短押しして、設定値を確認します。



[注1]

Min.はMまたはMultiモードで設定可能な最低出力値をさします。C.Fn-05の設定値によってそれぞれ1/128または1/256です。多くのセットトップランプで、サポートする最低出力は1/128であり、1/256に設定できません。神牛会社のAD600などのハイパワースタジオランプと組み合わせると、最低出力を1/256まで調整できます。

### ● ストロブグループリングスイッチの設定

1. カスタム機能の中でストロボモード (C.Fn-04をonに設定します) を起動します。
2. <GR> ボタンを短押しして、グループを選択し、シングルクリックして下へ選択し、ダブルクリックして上へ選択します。
3. <MODE> ボタンを短押しすると、選択されたグループのモードは変化されます。
4. カレントグループのモードはon/--モードで順次に切り替わります(--はOFFを示し、カレントグループが発光しません)。



## X トランスミッターの設定

### ● ストロボパラメーターの設定

1. ストロボモードに入ってから、ストロボパラメーターの設定に入ることができます。
2. <MODE> ボタンを押して、ストロボパラメーター設定のサブメニューに入ります。
3. 三行の表示内容はそれぞれP（出力値）、T（発光回数）、H（発光周波数）です。
4. <GR> ボタンを短押しすると、対応する設定値を選択できます。設定値が点滅している時に、ダイヤルを回して設定値を変更できます。<GR> ボタン短押しし続けて、三つの設定値を全部設定します。<MODE> ボタンを短押しして、設定状態を退出します。



発光回数は発光出力値と周波数に制限されます。設定された発光回数はシステムに許容された上限を超えてはいけません。レシーバ側に伝送された回数は実際発光回数であり、カメラのシャッター設定とも関係があります。正常なストロボ回数を確保するため、下記の計算式を使ってカメラのシャッター速度を計算してください。ストロボ回数÷周波数=シャッター速度

### ● グループ値の設定

1. <GR> ボタンを長押しして、あらゆる有効グループと一緒に設定できます。
2. あらゆる有効グループのグループ値は点滅し、ダイヤルを通じて設定値を変更できます。一つの有効グループは最大値またはMin. 値になると、有効グループの値は変化しません。
3. カレントグループはMモードにある場合、パワー出力値は一つのグループの値が最大値（1/1）または最小値（Min.）になるまで、Min.~1/1の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループはTTLモードにある場合、あらゆるモードが同じくTTLであるグループのFEC値はシンクロに調整されます。FEC値は一つのグループの値が最大値（3）または最小値（-3）になるまで、-3~3の間で0.3をステップとして変化します。カレントグループモードは--（発光シャットダウン）である場合、何の影響もありません。
4. <GR> ボタンを短押しして、設定値を確認します。

## X トランスミッターの設定

### ● テスト発光

1. <TEST> トリガーボタンを押して、発光は正常であるか否かをテストできます。
2. <TEST> トリガーボタンを全押しすると、この時の状態インジケータは赤色に点灯し、レシーバ側のフラッシュをトリガーします。
3. トランスミッターの設定値は同時にシンクロにレシーバに伝送されます。



### ● モデリングランプのコントロール

<CH/OK> ボタンをダブルクリックしてモデリングランプのスイッチをコントロールできます。

### ● 自動に節電モードに入ります

1. トランスミッターの操作を中止してから60秒後に、システムは自動に待機モードに入り、この時LCD表示は消えます。
2. システムを呼び覚ましたい場合、いずれかのボタン（<TEST> 全押し/<CH/OK>/<GR>/<MODE>）を押すことができます。トランスミッターはFUJIFILMカメラのホットシューに取り付けられた場合、カメラのシャッターを半押しすることを通じてシステムを呼び覚ますことができます。
3. トランスミッターにシングルコンタクトモード（表示）が設定された場合、節電モードに入りません。

## X トランスミッターの設定

### ● C.Fn : カスタム機能の設定

下記の表にある本製品応用欄を参照して、カスタム機能を使って設定を完了させます。

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明
C.Fn-00	シンク口遅延設定	00	遅延無し
		1~100	遅延N*100us発光(遅延アイコン  表示)
C.Fn-01	シングルコン	--	シャットダウン
	タクトモード	on	起動(シングルコンタクトモード設定済みアイコン  表示)トランスミッターはPCケーブルでカメラと接続されており、カメラはシングルコンタクトを通じてトリガーされたり、カメラはシングルコンタクトを通じてトリガーされたりする場合、トランスミッターをシングルコンタクトモードに設定することをお勧めします。
C.Fn-02	Zoom値の設定	--	Zoom機能オフ
		16, 18, 23, 33, 46, 53, 69	固定Zoom値 135全幅で(24/28/35/50/70/80/105mm) に対応できます
C.Fn-03	Pcポートをカメラ/フラッシュと接続します	in	入力: PCポートはカメラと接続します
		ou	出力: PCポートはフラッシュと接続します
C.Fn-04	ストロボ発光	--	ストロボ発光オフ
	オン、オフ	on	ストロボ発光オン
C.Fn-05	M/Multi模式下	1/128	M/Multi最低出力パワーは1/128です
	最小 出力率	1/256	M/Multi最低出力パワーは1/256です

## X トランスミッターの設定

カスタム機能番号	機能	設定番号	設定と説明
C.Fn-06	AFオートフォーカス補助発光	--	オフ
		on	オン
C.Fn-07	グループ数	03	A/B/C
		05	A/B/C/D/E
C.Fn-08	フラッシュ提示音	--	オフ
		on	オン
C.Fn-09	設定値を強制伝送します	--	設定値変更後だけに設定値を伝送します
		on	設定値は変更されなくても、発光前に設定値を強制伝送します。
C.Fn-10	APPモード	--	トランスミッターメインコントロールモードであり、トランスミッター側でトランスミッターモードと出力を設定できます。
		on	APPモードを起動し、トランスミッターはフラッシュだけをトリガーします。チャンネルとカスタム項目だけ調整でき、LCDにAPPを表示します。
C.Fn-11	特定カメラと特定フラッシュの設定	00	一般FUJIFILMカメラ
		01	レンズシャッターを使ったX100F、X100Tなどのカメラの場合、このオプションをオンにし、また、あらゆるグループのモードをMに設定すると、1/1250S以内のハイスピードシンクロを実現できます。
		02	このオプションをオンにし、また、あらゆるグループのモードをMに設定すると、従来のTT600、V850IIフラッシュはX1T-Fにハイスピードシンクロ発光がトリガーされないという問題を解決できます。

Chボタンをダブルクリックすると、レシーバ側のモデリングランプを起動・シャットダウンできます。

TESTボタンを押し続けて起動させ、Status状態インジケータは2回点滅し、近距離レシーブを設定できます。この時、有効リモコン距離は30m以下であり、レシーバとトランスミッターは非常に近付いても、正常に通信できます。

1. <CH/OK> ボタンを2秒またはそれ以上長押しして、<Fn> を表示させます。

2. カスタム機能番号を選択します。

\* 調整つまみを回してカスタム機能番号を設定します。

3. 設定を変更します。

\* <GR> 設定ボタンを押すと、カスタム機能番号が点滅します。

\* 調整つまみを回して欲しい番号を設定し、<GR> ボタンを押して確認します。

\* カスタム機能を設定した後、<MODE> モードを押してボタンを選択すると、C.Fn設定状態を退出します。

## ● カメラ側の設定

カメラの発光モードはTTL発光モードに設定すると、X1T-Fをトリガーできます。

FUJIFILMカメラ発光モードの設定



## ● ホットシュー取付フラッシュ

別に購入したホットシューアダプターフラッシュアセンブリを取り付けたり、起動したりした場合、下記のオプションは使用できます。



①**発光制御モード**：フラッシュアセンブリを使って選択した発光制御モードです。一部の場合、カメラから調整できます。使用可能なオプションはフラッシュによって異なります。

- TTL：TTLモード。フラッシュ補正を調整します (②)。
- MULTI：多灯発光。写真を撮るたびに、対応ホットシューアダプターフラッシュアセンブリは複数回に発光します。

②**フラッシュ補正/出力**：使用可能なオプションは発光制御モードによって異なります。

- TTL：フラッシュ補正の調整（発光制御システムの制限を超えた場合、一部の数値は利用できないことがあります）。EF-X20、EF-20とEF-42を使う時に、選択した値はフラッシュアセンブリを使用した時に選択された値に追加されます。
- MULTI：発光出力の調整（互換可能なアセンブリだけに限られます）。

③**フラッシュモード(TTL)**：TTL発光制御を行なうフラッシュモードを選択します。使用可能なオプションは選択された撮影モード（P、S、AまたはM）によって異なります。

- **SHOTS**（自動発光）：フラッシュは必要な時だけに発光します。発光レベルは撮影対象の輝度によって調整します。シャッターボタンを半押しした時に、**F** アイコンが表示され、写真を撮影する時にフラッシュは発光することを示します。
- **閃TTL**（標準）：フラッシュは撮影するたびに、できるだけ発光します。発光レベルは撮影対象の輝度によって調整します。シャッター開放時、フラッシュは十分に満充電されていない場合、フラッシュは発光しません。
- **閃M**（スローシンクロ）：夜景背景にある肖像被写体を撮影する時に、フラッシュとロースピードシャッターと組み合わせます。シャッター開放時、フラッシュは十分に満充電されていない場合、フラッシュは発光しません。

④**シンクロ：発光チャンスの制御**

- **FRONT**（第一幕）：シャッターが起動した後にフラッシュは直ちに（普通撮影の最適選択）。
- **REAR**（第二幕）：シャッターはシャットダウンする前に、フラッシュは発光します。
- **閃**（自動 FP (HSS)）：ハイスピードシンクロ（互換可能なアセンブリだけに限られます）。シャッター速度はフラッシュシンクロ速度より高い時に、カメラは自動的に前幕ハイスピードシンクロを使用します。発光制御モードはMULTIに選択された時に、第一幕に相当します。

⑤**ズーム**：発光ズームをサポートするアセンブリの照明角度（フラッシュの発光範囲）。一部のアセンブリの当該設定はカメラから調整できます。自動を選択した場合、カメラは自動的にズームを調整し、発光範囲をレンズ焦点距離とマッチさせます。

⑥**ライティング**：アセンブリはこの機能をサポートする場合、下記のオプションから選択してください。

- **閃**（フラッシュ電源優先）：少し発光範囲を減少してレンジを増やします。
- **閃**（標準）：視角によって発光範囲をマッチさせます。
- **閃**（均一カバー優先）：少し発光範囲を増やして、より多い均一な光線を獲得します。

⑦**LED ランプ**：静態撮影中において内蔵LEDランプはいかに役に立つかを選択します（互換可能なアセンブリだけに限られます）。反射光（**閃**反射光）としますか、AF補助ランプ（AF/AF補助）としますかそれと同時に反射光とAF補助ランプ（**閃** / AF補助+反射光）としますか。OFFを選択することによって、撮影過程中にLEDをディスプレイにさせることができます。

⑦**発光回数**：MULTIモードにおけるシャッター開放時にフラッシュの発光回数を選択します。

⑧**周波数**：MULTIモードにおけるフラッシュの発光周波数を選択します。\*

\* 発光制御システムの制限を超えた場合、一部の数値は応用できない恐れがあります。

## トランスミッター

### ● 操作方式の選択

<CH/OK> ボタンを5秒長押しして、操作方式(方式1/方式2)を切り替えます。  
X1T-F操作方式1 (デフォルト)

TTL/Mモード		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります。
	ダブルクリック	モデリングON/OFFをコントロールします。
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります。
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	下へ設定グループを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します
MODE	短押し	設定グループ発光モード(TTL/M/OFF)の切替
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ペーシターニング(5グループ)
	channel状態の設定	channel数値を調整します
	グループ状態の設定	グループパワー-POWER/露出補正FECを調整します

## トランスミッター

Multiモード(C.FN-04-on)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(状態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	下へ設定グループを選択します (PTH状態で)設定パワー-power/回数times/周波数hzを選択します
	ダブルクリック	上へ設定グループを選択します
MODE	短押し	設定グループ状態でON/OFFをコントロールします
		(PTH状態で)常態に戻ります
		常態でPTH状態 (P-パワー-power、T-回数times、H-周波数hz) に入ります
つまみ	状態	機能
	常態	無し(3グループ)/ペーシターニング(5グループ) [注3]
	channel常態の設定	channel数値の調整
	パワー状態の設定	パワー数値を調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

## X トランスミッター

### X1T-F操作方式二

TTL/Mモード		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	設定パワーPOWER/露出補正FECを選択します
	2秒長押し	あらゆるグループを選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>モード(TTL/M/OFF)の切替
つまみ	状態	機能
つまみ	常態	設定<▶グループ>を選択します
	channel状態の設定	channel数値の調整
	グループ状態の設定	設定グループのパワーPOWER/露出補正FECの調整

## X トランスミッター

Multiモード(C.FN-04-on)		
ボタン	操作	機能
CH/OK	短押し	(常態で)CH設定状態に入ります。(設定状態で)確認して常態に戻ります
	ダブルクリック	モデリングランプのON/OFFをコントロールします
	2秒長押し	C.Fn設定状態に入ります
	5秒長押し	操作方式(方式1/方式2)の切替
GR	短押し	(PTH状態で)設定/パワーpower/回数times/周波数hzを選択します
MODE	短押し	(常態で)<▶グループ>のON/OFFをコントロールします (PTH状態で)状態に戻ります
	2秒長押し	PTH状態(P-パワーpower、T-回数times、H-周波数hz)に入ります
つまみ	状態	機能
つまみ	常態	無し(3グループ)/ペーシターニング(5グループ)
	channel状態の設定	channel数値の調整
	パワー状態の設定	パワー数値を調整します
	回数状態の設定	回数数値の調整
	周波数状態の設定	周波数数値の調整

## 注意事項

- 1.正しくトリガーしたり撮影したりすることができなかった場合、電池が正しく装着しているか、フラッシュトリガーの電源を入れているか、フラッシュトリガーが同じチャンネルに設定されているか、接続ケーブルまたはホットシューソケットが正しくしっかりと接続されているか、機能モードが正しく設定されているかを確認してください。
- 2.カメラが撮影できるが、フォーカスできない場合、本体またはレンズはMF（マニュアルフォーカス）に設定されているか否かを確認してください。AF（オートフォーカス）に設定してください。
- 3.フラッシュトリガーは他人の干渉によってトリガーされたり撮影されたりする場合、フラッシュトリガーのチャンネル設定を変更するだけで良いです。
- 4.トリガー距離が限られたり、ミスフラッシュ現象があったりする場合、電池残量が切れているか否かを確認してください。電池を交換してみてください。

## フラッシュトリガーの保守

- 落下防止**：強いショックまたは振動を受けると、フラッシュトリガーは故障になることがあります。
- 乾燥維持**：本製品は防水機能を持っていないため、それを水中に浸したり、湿度の高い環境に置いたりすると、故障になり、内部構造に錆が出て修理不能な損害を受ける可能性があります。
- 温度急変防止**：温度の急変、例えば寒い季節に暖かいビルを出入りすることはフラッシュトリガーの内部に結露を起こさせることがあります。温度の急変による結露を避けるため、予めフラッシュトリガーをバッグまたはプラスチック袋に入れてください。
- 強磁場から遠く離れること**：ラジオ放送トランスミッターなどのデバイスによる強い静電または強磁場は本製品の正常動作を干渉する可能性があります。

## 仕様

タイプ	X1T-F
類型	FUJIFILMバージョン
対応カメラ	あらゆるPC出力ポートを持ったカメラをサポートします
ワイヤレス内蔵	2.4G周波数
変調方式	MSK
給電方式	2*AA電池
手動発光	あり
TTL自動発光	TTL
ストロボ発光	あり
ハイスピードシンクロ	あり
露出補正	あり、±3段階の間で1/3段をステップとして調整できます
露出ロック	あり
補助フォーカシング	手動起動
後昇シンクロ	あり（カメラ側の設定）
制御可能なスレーブユニットグループ	5グループまで(A/B/C/D/E)
伝送範囲(約)	>100m
チャンネル	32個

## X仕様

その他	
遅延設定	あり(0~10ms、100usを単位として設定します)
ZOOM設定	トランスミッターを通じてフラッシュ焦点距離値を調整できます
ディスプレイ	ワイドスクリーン液晶表示、バックライト起動またはシャットダウン
出力ポート	トランスミッター：PCポート入力、出力。
ファームウェアアップグレード	本体にあるMicro USBを通じて、ファームウェアアップグレードを行ないます。
記憶機能	設定されたパラメーターは2秒後に自動的に記憶され、再起動すると、自動に復元されます。
トランスミッターのサイズ/正味重量	72x75x52(mm)/100g

## X対応カメラリスト

FUJIFILMカメラのフラッシュコントロール方式によって、下記の種類に分けられます。

A類	X-Pro2, X-T20, X-T2, X-T1, GFX 50S
B類	X-Pro1, X-T10, X-E1, X-A3
C類	X100F, X100T

### カメラ対応及び機能サポート対照表

	X1T-F				
	TTL/M 発光			ストロボ発光	AF補助フォーカシングランプ
	標準	REAR	HSS(FP)	標準	
A類	✓	✓	✓	✓	✓
B類	✓	--	--	✓	--
C類	✓	✓	(注 <sup>1</sup> )	✓	--

注：

1. X100Tは後幕（REAR）機能を有していません。
2. AF補助フォーカシングランプはシャッターロースピード（<200）時だけに点灯します。



●このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるFUJIFILMのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。

●弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。

●注1：C.Fn-11カスタム項目の説明を参照してください。